



# ほの研通信新年号

第18号 平成27年1月発行

発行者:NPO法人ほのぼの研究所

発行責任者 代表理事 大武美保子

〒277-0882 千葉県柏市柏の葉6-2-1

<http://www.fonobono.org/>



## 新年のご挨拶

あけましておめでとうございます

旧年は、防ぎうる認知症にかからない社会を創ることを目標に掲げ、社会に与える影響から逆算して活動した一年でした。目標の実現に近づくためには、ほのぼの研究所だけでなく、多くの方や組織との連携が必要になります。2014年2月に放映された、TBSテレビ夢の扉+「楽しい会話の力でさらば！認知症」を通じ、全国各地の個人や自治体、企業からの問い合わせがあり、これらに対応するための体制作りが急務となりました。

そこで、認知症予防と同時に健康づくり、地域活性化の効果が期待できる、全国各地に展開しうる新たなプログラムとして、街歩きと共想法を組み合わせた「街歩き共想法」を考案しました。これまでに、東京都台東区の谷中、茨城県桜川市真壁町、千葉県千葉市の海浜ニュータウン、千葉県柏市の柏の葉スマートシティ、埼玉県川口市のSKIPシティの五か所で開催し、効果的な手順を検討しました。本年は、旧年に開発した街歩き共想法を各地へ展開し、人と街に与える効果検証を行います。

この他、旧年より準備を進めてきた事柄に取り組みます。具体的には、企業と連携し、「共想法」を受益者負担により営利事業として社会実装するための、プログラム開発と、講師の育成を行います。また、以前より継続して参りました、介護予防施設、介護施設、病院と連携しての実証研究に引き続き取り組みます。

同時に、「防ぎうる認知症にかからない社会」の土台となる「高齢者が役割を持ち、多世代へ貢献することができる社会」において共想法を活用する方法を明らかにするため、高齢者だけでなく多世代の方に共想法に参加頂きます。共想法への参加が各世代に与える影響と、双方向の会話を通じた世代を超えた相互学習の可能性について検討します。国際連携については、2012年の在外研究がきっかけとなり、スイスと日本の研究者が健康な老化について議論するワークショップを、日本で開催します。

旧年の一連の活動を支えて下さったすべての方々に、心より感謝申し上げます。本年もご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

NPO法人ほのぼの研究所代表理事・所長  
千葉大学准教授 大武美保子



ロボット「ぼのちゃん」と。左側から2号、3号、1号機。カメラが話し手の表情を認識して笑い声で場を盛り上げる(JST News取材カメラマン、浅賀俊一氏撮影)

2014年9月に開催された、千葉県柏市の柏の葉スマートシティにおける街歩き共想法で、屋外を散策している様子。右の写真左手に写っているのは、オークビレッジ柏の葉(体験型貸農園)



2014年10月に開催された、埼玉県川口市のSKIPシティにおける街歩き共想法で、館内を見学している様子。左の写真は、映像ミュージアムの中。

## 2015年の重要施策

- ◆ 企業、介護予防施設、介護施設、病院との連携
- ◆ 多世代への共想法の実施
- ◆ 街歩き共想法の推進

# 第七回クリスマス講演会(パネルディスカッション)

共催:東葛テクノプラザ 協力:千葉県生涯大学校東葛飾学園 流山市民活動推進センター

## 「防ぎうる認知症にならない社会に向けて人材育成と生涯学習、高齢者福祉をつなぐ」

12月9日13時30分より恒例のクリスマス講演会を東葛テクノプラザ多目的ホールにて開催致しました。亀田和宏氏の来賓挨拶に引き続き、東葛テクノプラザ、千葉県生涯大学校東葛飾学園流山市民活動推進センター、そしてほのぼのの研究所と違った立ち位置の機関に所属する4人がそれらの実態や課題について話し合う初のパネルディスカッションが繰り広げられました。



## 大切なのは、それぞれのネットワークの相互理解を深め、活用しあっていくこと

### 地域活動の担い手育成の場としての生涯大学校へ



千葉県生涯大学校  
東葛飾学園  
学園長 伊沢 寿男氏

仲間づくり・生きがいを目的として昭和50年に設立された老人大学校は生涯大学校と名前を変え、さらに平成25年度から時代の要請に応えるべく大幅刷新。

東葛エリアはもとより高齢者の地域活動参加意識が高くネットワークが強固。

### 地域ニーズにマッチした市民活動へと多角的にサポート



流山市民活動推進センター  
センター長 木村 正夫氏

場・情報の提供に留まらず、時宜に応じたスキルアップ研修、異業種交流コーディネート等で多くの市民活動を支援。市民活動で肝心なのはニーズとシーズのバランスの見極め、そして心構え。共助から公助へと進化すれば理想的。

### 産官学民連携で地域のポテンシャルを 発掘、活かす、育てる



東葛テクノプラザ  
所長 山田 伸氏

千葉県が設立した地域企業の技術・開発力の向上、新産業創出、ベンチャー企業の育成等、ものづくりを中心に多方面で支援する機関。

時代のニーズに対応するべく、医工連携のプロジェクトが進行中。

### 多くの方々との連携と強固な体制づくりで 「共想法」をさらに進化させていきたい



ほのぼのの研究所  
代表理事・所長 大武 美保子氏

ほのぼのの研究所活動を通じて痛感するのは、人材育成や高齢者組織とのネットワーク化の必要性。企業等との連携、高齢者のみならず多世代への適用や社会貢献も視野に入れ、新開発の街歩き共想法の深耕も含めて、さらに前進していきたい。

### 会場からのQ&A



Q-市民活動へのニーズ(特に子育て)の変化は?

A-コミュニティ行事の担い手の減少、育児中の母親の後方支援、育メン講座等

Q-東葛テクノプラザでの成功事例は?

A-上場したのは3社。生産拠点や社屋の建設、工業団地移転は11社

Q-生涯大学校における認知症予防関連授業時間数は?

A-2年間で認知症サポーター講座2時間。多分野にわたるカリキュラムから今後の勉学のきっかけを提供するのが生涯大学校の役割

Q-相互学習において認識の転換点とすべきことは?

A-苦手分野から逃げることは、認知機能の活用の偏りを招き、苦手分野の種類によっては認知症にもつながる可能性がある。やらざるを得ない環境も時には必要

## クリスマス交流会



講演会に引き続き16時から、講演会場である多目的ホールの真上の階の明るく開放的なラウンジで交流会が行われました。

入り口では、ロボット研究員「ほのちゃん」とクリスマスツリー、テーブルの上ではケーキやサンドウィッチがお待ちかねです。

ほぼ定刻に皆様にお集まり頂き、ほのぼの研究所所長の開会の挨拶の後、来賓挨拶、乾杯の挨拶と続き、大学生達が鳴らすクラッカーを合図に、華やかに交流会が始まりました。

初めてご参加の方とも会話が弾むよう、途中司会者のリードで誕生日や干支グループによるテーブル移動もはかられ、サンタの帽子やトナカイの角を頭に付けた皆様には、ケーキやサンドウィッチ、コーヒーを召し上がりながら、和やかにご歓談頂きました。

参加者60名の自己紹介が最後の研究員の番になる頃には、日もとっぷりと暮れて、閉会の時刻が近づきました。最後は威勢のよい一本締め、名残惜しい交流会は幕を閉じました。

## 2014年十大ニュース

### 1. 街歩き共想法

昨年より増尾の根拠地から谷中、真壁、海浜NT、柏の葉、川口へ赴いて共想法を実施。好評で今後も継続の予定奮ってご参加を！！

### 2. 大武先生、平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞、受賞

受賞テーマは、「大規模会話データに基づく個別適合型認知活動支援の研究」、共想法研究関係者各位に感謝

### 3. TBS・TV『夢の扉+』で大武先生、共想法について紹介

全国的に大きな反響、問い合わせが殺到

### 4. クリスマス講演会にて初のパネルディスカッション開催

テーマ:「防ぎうる認知症にかからない社会に向けて、人材育成と生涯学習、高齢者福祉をつなぐ」於:東葛テクノプラザ

### 5. 共想法にタブレット端末を使用

1日1話を目標にタブレット端末にて新しい情報を撮影、体験記憶を修練

### 6. ほのぼの研究所設立記念講演会開催

テーマ:「地域貢献と社会変革」於:千葉大学柏の葉キャンパスシーズホール

### 7. ロボットによる会話支援の研究

千葉大学大武研究室の大学院生が取り組む

### 8. マニュアル作成、業務の標準化

街歩き共想法、タブレット操作等のマニュアル作成、主要業務手続きの標準化

### 9. ほの研通信新編集方針

新年号、秋季号の年2回発行に変更、写真を多用し読みやすい紙面づくりを目指す

### 10. ぎんさん娘さん姉妹と共同研究

大武先生が中心に、取材をきっかけとしてその後も継続的に、健康長寿会話について共同研究

## 街歩き共想法こぼれ話

ほのぼの研究所では、話題探しのコツを楽しみながら学ぶことを目的として、街歩きと共想法を組み合わせた新しい企画に取り組んでいます。

2014年は谷中、真壁、海浜ニュータウンに続き、9月には官民学が連携して社会的課題に解決モデルを創出していく柏市柏の葉スマートシティ、10月には川口市の映像産業(行政)拠点であるSKIPシティに出かけました。

どちらも自発的に訪れるきっかけの少ない場所だけに、最先端技術に驚いたり、大きな自然の力に畏怖したり、技術の粋に感心したり、童心に帰ったりと…と、ちょっぴり非日常のわくわくドキドキをみんなで共有。その後の共想法では会話がぐいさ盛り上がって、脳も身体もぐいさに活性化したことを実感した日となりました。



大規模開発のジオラマに目を見張り、さわられる大きな地球儀で自然の脅威を実感(柏の葉スマートシティ)



童心に帰って楽しんだ合成映像「空飛ぶ魔法のじゅうたん」での夢の世界一周旅行と、見入ってしまった映画撮影現場の精巧なミニチュア(川口SKIPシティ)

## 協働事業者の声・エピソード

### きらりびとみやしろ

共想法を始めてから4年目に入り、第3チームが5巡目を終えました。毎回 素敵な写真とお話で盛り上がっています。第1チームと第2チームはタブレットを使った共想法へステップアップ。タブレットに触れ、新しい刺激に楽しんだり、混乱したり…。「脳が動き回ってるよ」と、日々共想法に触れ 新機器の扱いの大変さをも楽しんで下さっています(田崎誉代)

### 長崎北病院

長崎北病院では、軽度認知症の患者さんにリハビリとして共想法を実施。共想法によって、患者さんのQOL(よりよく生きるための生活の質)とADL(日常生活動作)を上昇させることができると考えています。今年度は、昨年度の実施記録ビデオから、会話量の変化、質問・反論の回数、笑顔やうなづきの回数を調べ、共想法の効果について検討しています(阿南悠希江・濱崎利沙)

### マカベシルバートピア

3年を経過し、マカベ共想法は6期目に入りました。45日ほどお休みを頂いた後、ふたを開けてみて驚きました。そのお休みの間にも、参加者の皆様の話術が進歩していたのです。共想法の活動が、ライフスタイルに影響を与えているのではないのでしょうか(永田映子)

## これからの予定

- \*1月24日 合同研修会
- \*2月3日、17日 継続コース冬学期
- \*6月23日 設立記念講演会

## 参加者募集とお願い

\*私たちと一緒に共想法の活動ができる方を募集しています。お問い合わせは下記へ。

E-Mail : [frioffice@fonobono.org](mailto:frioffice@fonobono.org)

FAX : 04-7172-6704

\*賛助会員の更新、会費お支払をお願い申し上げます。

## 編集後記

昨年11月日本で初めて開催された認知症をめぐる大掛かりな国際会議をきっかけに日本政府もようやく認知症予防対策の強化を打ち出しました。大規模な調査結果が予防や治療に生かされるとのことです。

もとより防ぎうる認知症の予防のための「共想法」に携わるほのぼの研究所としては、さらなる進化が求められている期が到来したと肝に銘じております。

今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。(編集子)

